

令和4年度

白老町統一学力調査〔標準学力調査〕結果概要

令和4年度に実施した白老町統一学力調査〔標準学力調査〕の結果概要と本町における学力向上の取組についてご報告いたします。

1 実施調査

標準学力調査〔CRT〕東京書籍

2 調査目的

- (1) 教育委員会及び各学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

3 実施学年、実施人数、実施教科、実施日

(1) 小学校

実施学年	実施人数	実施教科	実施日
小学校3年生	65人	国語 算数	4月19日
小学校4年生	70人		
小学校5年生	63人		

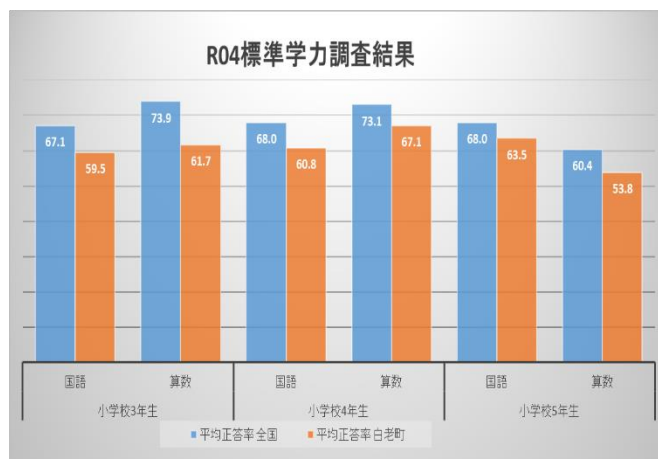
(2) 中学校

実施学年	実施人数	実施教科	実施日
中学校1年生	85人	国語、社会、 数学、理科	4月19日
中学校2年生	65人	国語、社会、 数学、理科、 英語	4月19日

4 調査結果概要

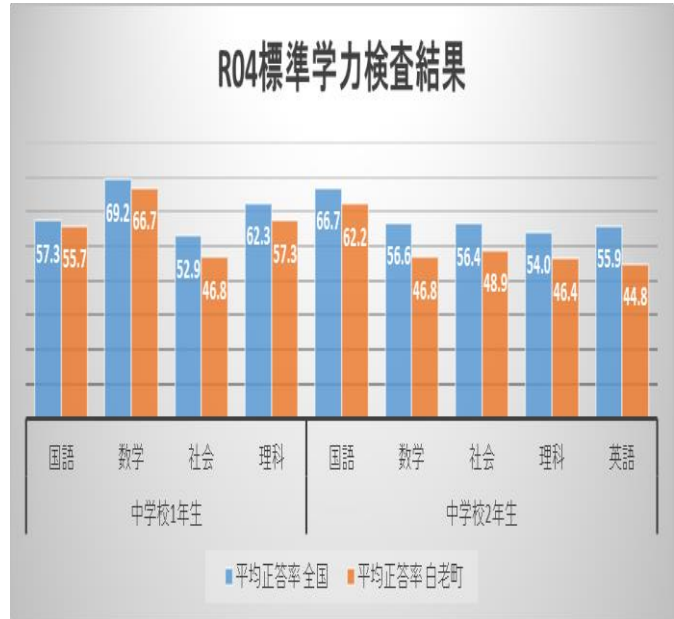
(1) 小学校

実施学年	教科	平均正答率	
		全国	白老町
小学校3年生	国語	67.1	59.5
	算数	73.9	61.7
小学校4年生	国語	68.0	60.8
	算数	73.1	67.1
小学校5年生	国語	68.0	63.5
	算数	60.4	53.8



(2) 中学校

実施学年	教科	平均正答率	
		全国	白老町
中学校1年生	国語	57.3	55.7
	数学	69.2	66.7
	社会	52.9	46.8
	理科	62.3	57.3
中学校2年生	国語	66.7	62.2
	数学	56.6	46.8
	社会	56.4	48.9
	理科	54.0	46.4
	英語	55.9	44.8



5 各学年の傾向（国語、算数・数学）

(1) 小学校

<3年生>



- ・特に「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均と同程度の定着が見られます。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の定着が課題です。



- ・多くの領域で、全国平均よりかなり低い傾向にあります。
- ・特に「数と計算」「図形」の領域の定着が課題です。

<4年生>



- ・特に「我が国の言語文化に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域は、全国平均と同程度の定着が見られます。
- ・「書くこと」の領域の定着が課題です。



- ・「図形」「測定」の領域は全国平均と同程度の定着が見られます。
- ・「データの活用」の領域の定着が課題です。

<5年生>



- ・特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は全国平均と同程度の定着が見られます。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の定着が課題です。



- ・多くの領域で、全国平均より低い傾向にあります。
- ・特に「データの活用」の領域の定着が課題です。

(2) 中学校

<1年生>



- すべての領域で、全国平均と同程度の定着が見られます。



- すべての領域で、全国平均と同程度の定着が見られます。

<2年生>



- 特に「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は全国平均と同程度の定着が見られます。
- 「我が国の言語文化に関する事項」の領域の定着が課題です。



- 多くの領域で、全国平均より低い傾向にあります。
- 特に「図形」「データの活用」の領域の定着が課題です。